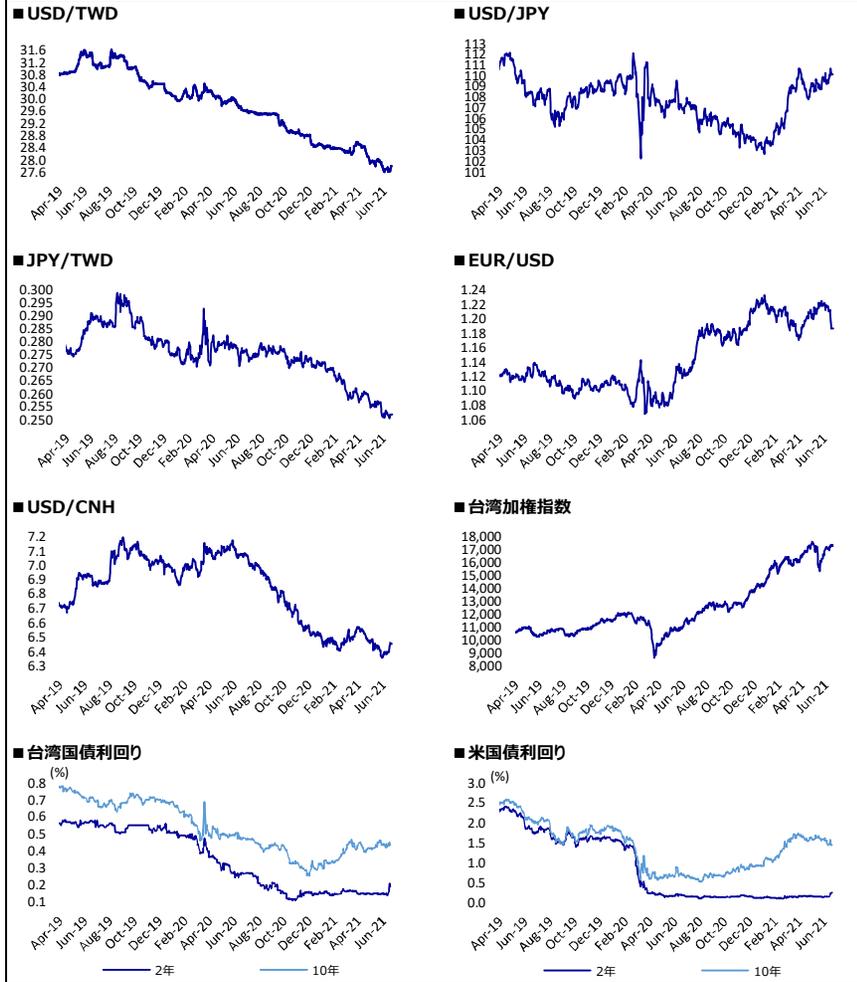


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。連休明けの週初6/15は27.760でオープン後、輸出企業の台湾ドル買いや上昇する台湾株につられて一時27.615まで下落。しかし、FOMCを前に調整の動きからドルが買い戻された。6/16はFOMCを前に27.63付近の取引が続いたが、外資や生保等のドル買いが入り、27.70近くまで上昇。6/17はFOMCの結果を受け米金利が上昇する中、一時27.790をつけたもののすぐに下落し27.70付近に。その後はじりじりと買い戻され27.75付近で推移。6/18は引き続き外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となり、一時27.820まで上昇。ドル買いが一服すると戻す場面もあったが、最終的に先週比0.6%ドル高台湾ドル安の27.810で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は264.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初6/14は109.67でオープン後、主要な米経済指標の発表がない中、米長期金利が上昇に転じたことに加え、FOMCを控えてのポジション調整の動きからドルが買われて、110円台前半まで上昇。翌6/15はFOMCを前に様子見ムードから110円台前半のレンジで推移。6/16は、注目のFOMCでは現行の政策金利に変更はなかったものの、メンバーによる政策金利見通しが早期利上げを示唆するタカ派寄りの内容となったことを受けて米金利が上昇、ドル買いが加速し、110円台後半まで急伸。6/17は、前日のFOMCでの早期利上げ観測を受けたドル買いが継続し、一時110.82まで上値を切り上げた。しかし、米金利が徐々に低下するとつられてドル/円も110円台前半まで下落。6/18は、ブラード・セントルイス連銀総裁からタカ派色の強いコメントが伝わると一時110円台半ばまで上昇したが、低下する米金利につられて110円台前半に戻され、最終的に先週比0.5%ドル高円安の110.25で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.650-27.900
先週はFOMCから外国人投資家の台湾ドル売りの流れが強まった。今週は月末に近いことから輸出企業のドル売りが入ると思われるが、米金利の上昇が落ち着いても外国人投資家の台湾ドル売りが継続しており、引き続き外国人投資家の台湾ドル売りに警戒したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.50-110.80
タカ派なFOMCを受け、一時、米長期金利が上昇したもの、足許は落ち着いている。今週はFED高官の発言や米経済指標の発表も相次ぐため、再度、早期テーパリング期待の高まりからのドル/円の上昇に注意したい。

今週の予定

6/21 (MON)	台湾6月輸出受注
6/22 (TUE)	米5月中古住宅販売件数
6/23 (WED)	台湾6月鉱工業生産、米6月PMI、米5月新築住宅販売戸数
6/24 (THU)	米5月耐久財受注、米1QGDP確報値
6/25 (FRI)	米5月個人所得・消費、米5月PCEコアデフレーター、米6月ミシガン消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。